



新たな飛躍へのまちづくり

鏡石町長 遠藤 栄作

あけましておめでとうございます。

町民の皆様には、新春を健やかに迎えたいとお慶び申し上げます。あの東日本大震災から間もなく9年を迎えようとしております。復旧復興もほぼ完了した矢先、関東甲信・東北地方の広範囲に甚大な被害をもたらした令和元年台風第19号では、本町においても、阿武隈川と鈴ノ川の堤防が決壊し、被害は昭和61年の8・5水害を上回り、また、78年前の昭和16年7月の浸水被害を超える大水害となりました。被災された皆様は心よりお見舞い申し上げます。

78年前と現在では生活様式が変わり、災害ゴミの中には多くの家具や電化製品が見られ、農業においても大型機械や施設園芸にかかるビニールハウス等が多数被災するなど、その被害額は甚大であります。しかし、今回の水害により人命を落とすことがなかったことに安堵したところであります。町としましては、被災された皆様に寄り添いながら、生活再建、農地や農業経営等の事業再建にしっかりと取り組んでまいります。

さて、今年、本町の5つの行政分野別目標に掲げた「第5次総合計画」の目標年次まで2年と総仕上げの年となることから、まちづくりの目標でもある「新たな飛躍」に向けてしっかりと取り組んで参りたいと思っております。

特に3つを挙げますと、地方創生と人口減少対策としての「子育て支援対策」、安心・安全の中で子どもから高齢者までが「笑顔で健康」に暮らせるまちづくりの拠点となる「鏡石町（仮称）健康福祉センター」の基本計画に基づく建設事業、水の安定供給体制を図る上水道の第5次拡張事業を着実に進めなければなりません。

また、「駅東第1土地区画整理事業」第1工区については、着々と住宅の建築が進められており、今後は、第3工区の推進を着実に進めて参ります。

今後も、令和という新しい時代にふさわしい「新たな飛躍のまちづくり」に取り組んで参りますので、町民各位並びに関係機関の皆様には、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、新しい年が皆様にとりまして幸多き年となりますよう心よりお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



心算に期して

鏡石町議会議長 古川 文雄

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

町民の皆様には、ご健勝にて新年をお迎えのことと心より、お慶び申し上げます。

また、常日頃から議会活動には、多大なるご支援、ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、東日本大震災から9回目のお正月を迎えました。震災からの復旧事業が完了し、復興に向け着実に歩みを進めておりましたが、昨年10月の台風19号は、阿武隈川の堤防を決壊させ、成田地区に甚大な被害をもたらしました。被災された皆様は心よりお見舞い申し上げます。議会といたしましても、生活の再建、事業の再開がいち早く整いますよう尽力して参ります。

刻一刻と変化し続ける環境の中で、私たちはともすれば目先のことにとらわれがちですが、新年を迎えるこの区切りの時に、じっくりと自分を振り返ったり、周囲の状況にも目を配りながら、新年の計画を立ててみることは大切なことではないでしょうか。

進化を続ける鏡石町も、目に見えて変化して参りました。国道4号拡幅工事も、役場入口から須賀川市までの区間が開通し、久米石方面へも順調に工事が進んでおります。JR鏡石駅に開設した町の駅「かんかんてらす」も町民の皆様や町外からのお客様のご利用により、駅前が明るくなったように感じます。また、駅東第1土地区画整理事業においても、第1工区がほぼ完成し、新築住宅の着工が続き、新しい町並みが築かれています。昨年、いよいよ第3工区の工事が着手されました。「鏡石町（仮称）健康福祉センター」建設の計画が順調に進み、町民の健康づくりと福祉の拠点として、赤ちゃんから高齢者まですべての町民が利用する施設として、親しまれる場所になるよう期待しております。

町議会は昨年8月に選挙が執行され、9月から新たな議会構成となりました。若輩ながら、議長に選任され、町議会を代表する役割に就くことになりましたが、その職責の重さを日々痛感しております。今後とも議会の活性化に努めるとともに、町執行へ皆様方の生の声をお届けできるよう、議会一丸となりまして取り組む所存であります。

年頭に当たり、町民の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、今年もより一層のご支援を、お願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

国道4号線の役場前交差点～蒲之沢交差点区間の4車線化により、交通便利性の向上・物流の効率化が期待される。
(12月19日(木)、ニプロファーマ株式会社鏡石工場屋上から撮影)